

	資料名	発行所	出版年	サイズ	頁数	所蔵
I. はじめに						
1	「博文館寄贈・尚志堂委託図書目録」	[市立米沢図書館]	[明治42年(1909)頃]	30.2×19.7	1点	市立米沢図書館
2	「感謝状臺帳」	[市立米沢図書館]	[明治42年(1909)頃]	25.0×17.0	1点	市立米沢図書館
3	博文館寄贈書籍『東洋通史』第1巻	久保得二(天随)著/大橋新太郎発行	明治36年(1903)初版、 明治40年(1907)三版	22.6×14.9	1点	市立米沢図書館
4	博文館寄贈書籍『定家撰 錦葉抄』	博文館発兌書林	明治36年(1903)11月購板発行	23.8×18.0	1点	市立米沢図書館
II. 東陽堂主人 吾妻健三郎						
5	『絵画叢誌』第1号	東陽絵画会事務所発行所	明治20年(1887)発行	27.4×15.3	1点	市立米沢図書館
6	『絵画叢誌』第13号	東陽絵画会事務所発行所	明治21年(1888)発行	27.4×15.3	1点	市立米沢図書館
7	『絵画叢誌』第17号	東陽絵画会事務所発行所	明治21年(1888)発行	27.4×15.3	1点	市立米沢図書館
8	『絵画叢誌』第20号	東陽絵画会事務所発行所	明治21年(1888)発行	27.4×15.3	1点	市立米沢図書館
9	菅原白龍画『白龍遺稿』	東陽堂支店発行所	明治34年(1901)発行	34.9×19.5	1点	市立米沢図書館
10	吾妻健三郎画“Scenes and customs in Japan” Part First	東陽堂支店発行所	明治31年(1898)初版、 明治35年(1902)二版	25.6×17.4	1点	個人蔵
11	『風俗画報』第1号 復刻版	東陽堂発行所/復刻版:明治文献	第1号:明治20年(1887)2月10日発行 復刻版:昭和48年(1973)	25.9×18.5	1点	市立米沢図書館
12	『風俗画報』第2号 復刻版	東陽堂発行所/復刻版:明治文献	第2号:明治21年3月10日発行 復刻版:昭和48年(1973)	25.9×18.5	1点	市立米沢図書館
13	『風俗画報』第21号 復刻版	東陽堂発行所/復刻版:明治文献	明治23年(1890)発行 復刻版:昭和48年(1973)	25.9×18.5	1点	市立米沢図書館
14	『風俗画報』第123号 復刻版	東陽堂支店発行所/復刻版:明治文献	明治29年(1896)発行 復刻版:昭和49年(1974)	25.9×18.5	1点	市立米沢図書館
15	『風俗画報』第131号 復刻版	東陽堂支店発行所/復刻版:明治文献	明治29年(1896)発行 復刻版:昭和49年(1974)	25.9×18.5	1点	市立米沢図書館
16	「羽前米沢松岬公園上杉神社之図」復刻版	東陽堂出版、復刻版:三陽堂	明治24年(1891)初版、 復刻版:昭和50年(1975)	35.0×93.0	1点	市立米沢図書館
17	『風俗画報』第163号「莫都三十年祭図絵」復刻版	東陽堂発行所/復刻版:明治文献	明治31年(1898)4月25日発行 復刻版:昭和49年(1974)	25.9×18.5	1点	市立米沢図書館
18	『太陽』第4巻第9号臨時増刊「莫都三十年」	博文館発行所	明治31年(1898)4月25日発行	22.7×15.0	1点	市立米沢図書館
III. 日本初の編集者 大橋乙羽						
19	高橋又太郎著『霹靂一声』	二書房発行	明治22年(1889)発行	18.5×12.4	1点	市立米沢図書館
20	渡邊又太郎著『おもひ川』	春陽堂	明治25年(1892)1月発行	24.0×15.2	1点	市立米沢図書館
21	大橋又太郎著『政治小説 果卵の東洋』	博文館発兌元	明治31年(1898)11月初版、 明治35年(1902)八版	15.1×10.9	1点	市立米沢図書館
22	大橋又太郎著『若菜籠』	博文館発兌元	明治31年(1898)12月初版、 明治32年五版	15.3×10.8	1点	市立米沢図書館
23	大橋又太郎著『千山萬水』	博文館発兌元	明治32年(1899)1月発行	15.0×10.9	1点	市立米沢図書館
24	大橋又太郎著『名流談海』	博文館発兌元	明治32年(1899)3月発行	15.0×11.0	1点	市立米沢図書館
25	大橋又太郎著『花鳥集』	博文館発兌元	明治32年(1899)5月初版、 明治35年四版	19.5×14.0	1点	市立米沢図書館
26	大橋又太郎著『風月集』	博文館発兌元	明治32年(1899)9月発行	15.1×10.8	1点	市立米沢図書館
27	大橋又太郎著『初子集』	博文館発兌元	明治32年(1899)12月発行	15.2×10.9	1点	市立米沢図書館
28	大橋又太郎著『続千山萬水』	博文館発兌元	明治33年(1900)2月初版、同年五版	15.0×11.2	1点	市立米沢図書館
29	大橋又太郎著『耶馬溪』	博文館発兌元	明治33年(1900)2月初版、 明治42年(1909)五版	15.0×11.2	1点	市立米沢図書館
30	渡部乙羽著、寺崎廣業画『少年文学 第23編 上杉蘆山公』	博文館発兌元	明治26年(1893)初版、 明治41年(1908)五版	18.7×12.7	1点	市立米沢図書館
31	『日用百科全書 旅行案内』	博文館発行	明治29年(1896)初版、 明治33年(1900)十版	22.6×15.2	1点	市立米沢図書館
32	大橋又太郎編『校訂一葉全集』	博文館発兌元	明治30年(1897)初版、 明治42年(1909)二十六版	22.3×15.3	1点	市立米沢図書館
33	『太陽』臨時増刊「世界一周」	博文館発行所	明治33年(1900)	30.3×22.0	1点	市立米沢図書館
34	大橋乙太郎編『欧米米水』	博文館発兌元	明治33年(1900)初版、明治35年 (1902)四版	22.1×15.1	1点	市立米沢図書館
35	大橋新太郎編『欧米小観』	博文館発兌元	明治34年(1901)発行	15.1×10.8	1点	市立米沢図書館
IV. ルポライターとして						
36	『太陽』第21巻第2号「磐梯登山(上)」	博文館発行所	明治29年(1896)10月	22.5×15.0	1点	市立米沢図書館
37	『太陽』第22巻第2号「磐梯登山(下)」	博文館発行所	明治29年(1896)11月	22.6×15.1	1点	市立米沢図書館
38	『風俗画報』第118-120号「大海嘯被害録」復刻版	東陽堂発行所/復刻版:明治文献	明治29年(1896)発行 復刻版:昭和49年(1974)	25.9×18.5	3点	市立米沢図書館
39	『風俗画報』第120号「大海嘯被害録」	博文館発行所	明治29年(1896)	25.4×19.1	1点	米沢市上杉博物館
40	『太陽』第2巻第14号	博文館発行所	明治29年(1896)	22.5×15.0	1点	市立米沢図書館
41	「三陸大海嘯義捐金の礼状」	—	明治31年(1898)10月1日	28.0×20.3	1点	本川功氏所蔵

ナセ BA 5周年記念

先人顕彰コーナー展示

# 吾妻健三郎と大橋乙羽

明治期2人の編集者

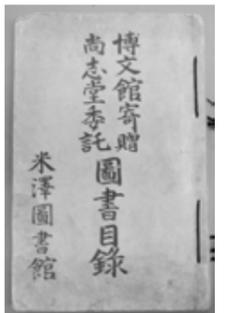
2021年

5月28日(金) ~ 7月20日(火)

会場 ナセ BA 中2階 先人顕彰コーナー

主催 公益財団法人米沢上杉文化振興財団

協力 ホテルおとわ



博文館寄贈・尚志堂委託図書目録

## はじめに

明治42年(1909)に開館した米沢図書館。その開館当初に作成されたと思われる資料「博文館寄贈・尚志堂委託図書目録」が現在も当館に残っています。博文館とは明治20年(1887)に越後長岡藩出身の大橋佐平(1836-1901)によって東京本郷で創業された出版社で、『文芸倶楽部』や『太陽』、『少年世界』等の大衆向けの雑誌を刊行し、明治期、日本最大の出版社として権勢を誇っていました。

尚志堂とは、自由民権家として活躍した清水彦介(1821-1895)の文庫で、この資料は博文館から当館に寄贈を受けた書籍の目録と、尚志堂から当館に委託された書籍の目録が合冊したのかと思われます。それを裏付けるかのように当館に残る「感謝状臺帳」には明治42年11月5日付で「図書726冊東京博文館主 大橋新太郎」とあり、博文館館主の大橋佐平の長男である大橋新太郎(1863-1944)の名前が記され、当館から感謝状が渡されたことがわかっています。

大橋新太郎は佐平の後を継ぎ、博文館の2代目館主となります。父の意向を継ぎ、私設の図書館「大橋図書館」(現三康図書館)を設置したことや、「金沢文庫」(神奈川県横浜市)の復興資金を供出したことなど、明治期、近代図書館設置の機運が高まった時代に資金を提供し、惜しみない協力をした人物としても知られています。当館に726冊もの書籍を寄贈したこともその一環のことかと思われますが、特に新太郎の義弟であった大橋乙羽(1869-1901)が米沢出身だったことが関係していたかと思えます。

その大橋乙羽を編集者として見出した人物がこれもまた東京日本橋で出版社、東陽堂を開業した吾妻健三郎(1856-1912)でした。この度ナセBA5周年を記念し、米沢図書館に縁ある、明治期に中央で活躍した米沢出身の2人の編集者、その業績の一端をご紹介します。

## 東陽堂主人 吾妻健三郎



吾妻 健三郎

『暁米沢人図記』より

吾妻健三郎(1856-1912)は米沢藩医の吾妻寿庵の三男として生まれ、明治5年(1872)12月(この月に太陽暦が導入されて明治6年となる。)に上京をします。明治7年に開校した東京開成学校製作学教場で教鞭をとっていたドイツ出身のお雇い外国人ゴットフリート・ワグネル(1831-1892)に銅版画印刷を習い、明治8年には、三色刷の銅板印刷に成功。さらに当時、海外に発注していた洋酒や香水のレットル(ラベル)を、吾妻がその印刷を一手に引き受けます。吾妻は、明治9年(1876)に東京日本橋に出版社「東陽堂」を開業し、印刷技術の向上を重ね、国内では大蔵省印刷局や民間の印刷業者にも技術がなく、印刷が困難であった農業地図帳「大日本帝国地産要覧図」(明治22年刊行、農商務省地質局)を完成。東陽堂は、地図印刷の草分け的な存在としても知られるようになりました。